

第2回 伊良湖岬中学校統合検討委員会 会議録

日時	平成27年10月22日（木）19時00分～20時54分
場所	和地市民館
出席者	<p>委員（25名）</p> <p>河合哲志、高瀬 勲、小久保忠廣、荒木健一郎、葉山昌司、青山裕行、春日孝氏、手塚俊彦、小久保克己、齋藤政弘、藤井正明、小久保幹夫、島津玲子、小久保光幸、藤井崇文、太田聖子、小久保美穂、小久保秀範、田中咲子、鶴飼亜由子、野村里美、尾澤由紀子、古川美栄、松田政春、河合正人</p> <p>事務局（9名）</p> <p>花井教育長、前田教育部長、鈴木教育総務課長、三竹教育企画室長、鈴木学校教育課長、富田政策推進課長、森下防災対策課長、鈴木渥美支所地域課長、清水教育企画室主任</p>
欠席者	なし
傍聴者	2名
事務局	開会
委員長	<p>あいさつ</p> <p>伊良湖岬中学校統合検討委員会の一番の目的は、第1回の際に配布されました設置要綱の中にありますように、統合検討委員会で統合先を決定するものではなくて、統合先についていろいろな観点・視点から検討して意見を出していただいて、統合検討委員会の中で検討した結果を教育委員会に報告し、それを受けて最終的には教育委員会が統合先を決定するとなっております。この場でいろいろな話をして統合先が一本化になれば、そういう報告もしますし、いろいろな視点から考えて、こちらの学校がいい、いや、こういう方向から考えるとこちらの学校がいいと、意見が一つにまとまらず並列になった形になれば、出た意見を並列した形で教育委員会に報告して、最終的な決断は教育委員会ですでにいただくことになっております。</p> <p>自治会長の立場など、いろいろな立場で出てはおられますけれども、自分の思いなど、とにかく意見を出していただくことが一番大事ではないかなと思います。</p> <p>きょうも、ざつぱらんに意見を出していただく目的で四つの小グループに分かれて意見交換を予定しておりますので、様々な意見をどんどん出していただくことが大事かなと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>本日は教育長も出席されておりますので、ごあいさつをいただきたいと思います。</p>
教育長	あいさつ
委員長	<p>第2回統合検討委員会を始めたいと思います。</p> <p>では、協議事項1 伊良湖岬中学校統合について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（資料1により説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組状況（伊良湖岬3小学校、伊良湖岬中学校について） ・学校再編の全体配置計画 ・渥美地域の中学校問題について

	<ul style="list-style-type: none"> ・伊良湖岬中学校統合検討委員会の開催 ・校区意見交換会の開催 ・泉中学校の再編について ・野田中学校の統合の状況
委員長	<p>協議事項1について事務局から説明がありました。御意見ございませんか。もう少し詳しく知りたいなどございましたら遠慮なく出してください。また後ほどでもいいので何かありましたら御意見を出してください。</p> <p>次に、協議事項2 地震津波及び防災対策について、森下防災対策課長から説明をお願いします。</p>
森下防災対策課長	<p>皆さん、こんばんは。防災対策課長の森下と申します。</p> <p>それでは、私からは地震津波及び防災対策について現状をお話しさせていただきたいと思います。近年、南海トラフ地震が叫ばれております。ここ30年間に南海トラフ地震が起きる確率は70%という非常に高い確率が出されております。南海トラフ地震は、非常に大規模、広範囲にわたって起きるのではないかと危惧されているところでございます。そういった状況の中で、本市におきましても防災対策、津波対策を進めているところです。</p> <p>きょうは特に赤羽根地区、福江地区の状況を中心にお話しさせていただきます。お手元に防災マップ、2015年版をお配りしております。こちらは、昨年度に愛知県が発表しました南海トラフ地震の被害予測調査に基づいて津波浸水等々の情報を盛り込んだ最新のものです。</p> <p>防災マップをごらんいただきますと、図中のブルーの部分最大の津波が起きたときに1センチ以上の浸水が考えられるところです。逆にクリーム色は、浸水は想定されていませんけれども、それぞれの自治会から避難したほうがいいのではないかといいところ色がついてある、避難する設定になっております。</p> <p>特に南海トラフ地震として今、考えられている大きなものでは、田原市では最大震度6弱から震度7の揺れが予想されております。建物被害については3万棟のうち約1万2,400棟余り、3分の1以上が倒壊する。人的被害についても1,500人余りを超える方が亡くなってしまわないかと心配されております。こういったことを受けて、市でも被害を少なくするための対策をしているわけでございます。まず基本的には地震に対する公共施設の耐震化、あるいは道路、橋梁等の耐震化を行っております。また、皆様方についても家庭の耐震化をお願いしているところです。</p> <p>また、地震が起きたときの避難場所をなるべくわかりやすくするために、道に案内看板をつけて避難できる体制、あるいは防災行政無線を整備して皆さんにいち早く情報をお知らせする対策をやっております。</p> <p>特にハード部分ですと、堀切校区、伊良湖校区では非常に大きな津波の浸水が心配されており、いち早い避難をしていただかなければいけないということで進めているわけでございますけれども、堀切校区では、やはり浸水想定区域外へ出るのに非常に時間がかかってしまいます。それを解消するために今回、堀切小学校の跡地に一時の</p>

	<p>避難場所となります津波避難マウンドを建設して、そちらに避難していただくということで現在計画しているところであります。あと、ソフト面ではいろいろ皆様方の御協力をいただきながら自主防災訓練とか研修会等を行っているわけでございます。</p> <p>そういった状況を踏まえながら図面をごらんいただきたいと思います。最初に伊良湖の先端が出ている防災マップを見ていただきたいと思います。</p> <p>今、お話が出ております福江中学校と赤羽根中学校がこちらの面に両方出ていると思います。先ほど御説明させていただいたように、いずれもごらんいただきますと、何も印がない白いところに位置がございます。これはいずれも今の南海トラフ地震の最大で見た場合でも、学校敷地のところには津波は来ないということをあらわしております。現に、両学校とも災害が発生した場合に住民の皆さんが避難をする避難所として設定してございます。これはやはり津波があったときに被害があるところではこういうことはできませんので、被害のないところということで選定しておりますので、安全性ですとか、そういった部分についてはいずれの学校も大丈夫だということで認識をしていただけたらと思っております。</p> <p>あと、津波の高さ等になるわけですが、右下にあります赤羽根中学校付近では津波高が9メートルから14メートルとなっております。実際に最大だとそのぐらいが予想されるわけですが、このあたりに書いてありますように、海拔が20メートルを超えておりますので、14メートルぐらいの津波が来ても学校までは到達しない予想となっております。</p> <p>また、今度は内海の三河湾方面の福江中学校を見てください。3メートルから4メートルでぐっと津波高が下がります。福江中学校の海拔は6.1メートルでございます。したがって、こちら津波による浸水は心配がないところでございます。</p> <p>実際に幹線道路の国道42号のところでは、一部浸水地域として、赤羽根漁港のところになります。国道259号ですと、亀山付近から伊良湖付近につきましては一部浸水が懸念されているところがございます。こういったものをなるべく解消するために、今、津波を防ぐ防護施設ができないかというようなことで県や国にも話をしているところであります。</p> <p>津波の想定については以上です。あと、津波を防げるところと防げないところがございます。そういった部分については、やはり避難の体制をいずれにしても整えておかなければいけないので、万が一のときに備えての行動、対策についてもあわせて進めていきたいと考えております。</p> <p>私からは以上とさせていただきます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。ただ今、事務局から御説明がありました。御質問等がございますか。</p>
委員	<p>校舎は震度7ぐらいでは大丈夫ですか。</p>
森下防災対策課長	<p>基本的には、昭和56年6月以降の建物は新耐震という基準で建てられております。それに満たない校舎については全て今、耐震改修が終了して、一部内装の落下を防ぐ工事等が始まっているところです。</p>

	これは震度7のときに100%倒れないかというところは、正直100%ではありません。基準上で、傾くことはあるけれども、おおむね倒れないということになります。これは全国同じでございます。
委員長	赤羽根中学校の校舎については、昭和58年以降で、新しい耐震基準に沿って建設されている。福江中学校の校舎はどうですか。
事務局	平成の建物は大丈夫ですし、それ以前の建物は耐震工事が終わっております。
委員長	福江中学校は内装の落下を防ぐ耐震工事はもう実施されているということですね。
森下防災対策課長	はい。強度的にはどちらも同じと考えていただいて結構です。
委員長	ほかに御質問はございませんか。
委員	統合先が決定しているわけではないので、そこまで聞いていいかわからないのですが、通学用のバスが通学コースとして危険な地域を通ることになると思うのですが、地震、津波の際の避難計画はどうなっていますか。
事務局	今回、伊良湖岬小学校でスクールバスを使っているのですが、地震があつてから津波が来るまでの時間が多少あるわけです。その間にどのように逃げるか、どこに来たらどこに逃げるかということをバスの担当者と打ち合わせをしながら、計画を立てていく必要があると思います。
森下防災対策課長	地震が起きて被害が起きるのに、津波が発生してからおよそ30分ぐらいです。その後すぐに警報等が出ますので、それを合図に、最寄りの避難所や高いところへ避難してもらうようになります。 あと1点、以前に御質問をいただいていた中部電力の渥美火力発電所関係で、重油があるから危ないのではないかとという質問を教育委員会にいただいたかと思います。 中部電力の渥美火力発電所には確かに原油はありますけれども、そこで火災が発生した場合、もちろん火は来ないですけれども、輻射熱というものがあります。その輻射熱が大きなタンクが延焼した場合に出ているわけですが、その及ぶ範囲が約500メートルぐらいですから、小中山地区の集落まで届かない程度の影響と渥美火力発電所から発表されております。したがって、小中山地区で現在、津波避難マウンドの建設計画をしているわけですが、一部、小中山保育園の立体駐車場、これは中部電力寄りにあるわけですが、そちらのほうもこういった火災のときでも大丈夫だということのでいつかの避難場所に利用しようと考えておりますので、もちろん福江中学校への火災、輻射熱の影響はないとお考えいただいて結構です。 以上です。
委員長	ほかはよろしいですか。 基本的なことですが、水色の浸水範囲はどの程度ですか。
森下防災対策課長	1センチ以上の浸水があるところですよ。
委員長	黄色の範囲はどうですか。
森下防災	黄色は、浸水区域ではありませんが、避難をした方がいいと地域と相談して決めた

対策課長	ところです。
委員長	わかりました。丸で入っている数字が海拔ですか。
森下防災 対策課長	海拔です。
委員長	お聞きしたいことがありましたら、ぜひどうぞ。 それでは、よろしいですか。
委員	赤羽根港周辺が浸水区域になっている。スクールバスで西の端から東の端まで行くのは何分ぐらいかかるか。
森下課長	浸水区域の通過時間は、1分、2分だと思います。
委員長	せっかくですから何でもいいですけれども、聞いていただければと思います。特に御意見等がないようでしたら、説明は終わりにして次に進んでいきたいと思います。 それでは、次にそれぞれ思いを出し合って、自分の思いや御意見等をどんどんどん出していただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。 4グループに分かれて意見交換をしていただけたらと思っておりますので、よろしくをお願いします。
	(4班に分かれ、職員の進行で意見交換)
委員長	それぞれのグループで出た意見について、簡単に報告をお願いしたいと思います。
事務局	第1班から報告させていただきます。 まず赤羽根中学校と福江中学校を比べて、施設的には赤羽根中学校のほうが本当にきれいだなと。新しいし、これは仕方ないという意見がありました。 泉中学校と伊良湖岬中学校と一緒に移動した場合にはちょっと心配だなという御意見もありました。 赤羽根中学校と福江中学校の子ども達の気質の違いがちょっと心配だなと。逆に、赤羽根中学校の子ども達のほうが伊良湖岬中学校の子に合っているという御意見でした。 また、旧渥美町のつながりから考えると、やはり福江中学校に行くべきではないかという御意見や、できるだけ通学時間を短くしてあげたいという御意見もありました。 それから、将来、渥美中学校をつくるならば、やはり福江中学校に行くべきではないかとの御意見もありました。 第1班からは、以上です。
委員長	ありがとうございました。 次に、第2班から報告をお願いします。
事務局	第2班から報告させていただきます。 おおむね施設見学をした感想としては、やはり新しい分だけ赤羽根中学校のほうが施設としてはいいとは思いますが、福江中学校についても将来的に建て替えが明確になっていけば福江中学校もいいと思う。 次に、今の段階でどっちがいいとはなかなか言えないことですので、これで地区の

	<p>意見交換会がありますので、その後全体でアンケートをして、その結果をもとに議論してはどうかということもございました。</p> <p>次に、3校区ございますので、地区によって通学距離や通学時間がかかり長くなるので、できれば通学時間を短く、自転車で行けるようなところであれば、それはそれで親としてはいいのかなとの意見もありました。</p> <p>ほかには、役員さん中心の学校見学会を開催していますが、いろいろな人の学校見学会をするのも一つの方法ではないかとの御意見もございました。</p> <p>それから、できるだけいろいろな情報を流してほしい。人のうわさ話の情報が多いので、できるだけ情報の共有を図っていくべきだという意見や、なかなか決まるものが決まらないということですが、教育委員会である程度決定や指示をしてもらったほうがかえって地元等の説明もしやすいという御意見もございました。</p> <p>第2班からは以上です。</p>
委員長	次に第3班から報告をお願いします。
事務局	<p>第3班から報告させていただきます。</p> <p>不安がある、決め方がわかりにくい、情報が少ないという意見があるとのことでした。そのため中学校の統合についても先延ばしですとか、新しい伊良湖岬小学校が要るのか、必要なのかと考えている方もいらっしゃるという意見がありました。</p> <p>次に、やはり校区ごとの説明会も大事だとは思うのですが、各小学校、中学校、保育園それぞれで、今度は保護者の方が出やすいような時間帯に説明会をやっていただければという意見が出ておりました。</p> <p>次に、方向性のある程度示していただいたほうが考える材料にはなるという意見もありましたし、統合先については地域性を考えてもいいのではないかとというような意見も出ました。そのほか、とにかく保護者説明会をやってほしいという意見がありました。</p> <p>以上です。</p>
委員長	それでは、第4班をお願いします。
事務局	<p>第4班から報告させていただきます。</p> <p>実際に伊良湖岬小学校がことし統合して、子どもたちがやはり不安定である、不安であるというそんな姿があるあるということから、今の五、六年生が今のままのスケジュールで行くと、また中学校のときに統合することになってしまいとても不安であり、子どもたちのそういった状況をもう少しよく確認してほしいという御意見をいただきました。</p> <p>次に、平成30年度に伊良湖岬小学校の新校舎を伊良湖岬中学校の跡地に建てるのが先に決まっていて、そのために今、大急ぎでこうして中学校の統合先を決めることがやはりかなり無理があるのではないかと。旧和地小学校の位置に今、和地小学校、堀切小学校、伊良湖小学校の3小学校が統合し、仮の校舎なのだけれども、それほど不便なく落ち着いた状態でいられるのだから、平成30年度に大急ぎで新校舎を建てなくても、中学校の統合先をもっとゆっくり考えることはできないのかという意見も</p>

	<p>いただきました。</p> <p>別の意見では、非常に迷うが、どちらかを選べと言われれば赤羽根中学校を選ぶ。ただ、実際には判断に迷って選べない人が多いのではないかと。</p> <p>次に、旧渥美町という地域性、あるいは将来新設の渥美中学校ができるかもしれないということであれば、やはり福江中学校という選択肢もある、そのような考えも出されました。</p> <p>次に、新設の渥美中学校の話でいうと、将来、新設校を旧渥美町で1校つくるという話が余り一般に流れていないように思う。その辺のことももう少しよく情報を流していただいて、それも踏まえて校区の皆さんに判断する材料にさせていただいたらどうかという意見がありました。</p> <p>次に、やはり子どもが途中から編入することに大変不安を持ってみえる方は、例えばよく聞く声として、「途中から編入するぐらいなら、できれば中学校に入学するときから、編入先の学校に入りたいぐらいの気持ちもある」という率直な御感想もおっしゃっていただきました。</p> <p>次に、実際に統合先を決めていくときに、例えば、この学校に行くなら通学方法はこうなりますよと、路線はバスで行くならこのように考えていますよというところまでも示してもらえると、判断するときの大きなポイントになる。例えば土田地区の子たちが福江中学校に行く場合、大坂を越えていくなら時間のロスはそんなにないですが、もしかしたら和地一色を通過して、小塩津の方から回って福江中学校に行く路線になると非常に時間のロスとなり、それなら赤羽根中学校のほうがいいのかと、そのようなことにもなり得る。判断材料として、具体的なことも示してもらえると、考えていきやすいという御意見をいただきました。</p> <p>細かなことも、難しいですが、考える材料にさせていただけると判断しやすいという意見をいただきました。</p> <p>以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それぞれの班の代表者から報告していただきました。私どもの班でこれが抜けているところもございませんか。</p> <p>今、御報告していただいた部分だけを見ても、それぞれのグループでいろいろ御意見を出していただいたのではないのかなと想像できます。</p> <p>やはりこうしていろいろな思いをどんどん出していただくことがすごく大事なかなと思いますので、こうやって小グループに分けてそれぞれの思いを出していただいたことはとてもよかったのではないかなと思っております。こうして出された意見をもとに次の統合を考える検討委員会の討議にきょうの意見等を参考にして、また意見交換会で意見が出されればすごくいいかなと思っておりますので、よろしく願います。</p> <p>次に、事務局からほかに何かありますか。</p>
事務局	<p>特にございません。</p>

委員長	長時間にわたり協議していただきました。ありがとうございました。 それでは、次回の日程等についてはいかがですか。
委員	最後にいいですか。 PTAで話をしましても、やはり、赤羽根中学校、福江中学校、どちらかに決めたくない、どこにも行きたくない、このままでいいという意見が実際にあります。 それで、もう1回、事務局に確認したいのですけれども、伊良湖岬中学校の跡地に伊良湖岬小学校を5年後につくるわけですね。それで、5年後からそれ以降を見ていくと、子どもの数はどんどん減っていきます。それでも伊良湖岬小学校を新たに作るのですか。
事務局	今、中学校の数字しかないのですけれども、伊良湖岬中学校の人数を見ていただいても、20人ぐらいでずっと行くのかなとは思っています。確かに、今からその先、減っていくかどうかはわかりませんが、まず伊良湖岬小学校は新しい小学校をつくることで進めていきます。
委員	ことし中に伊良湖岬中学校の移転先を決めないと、それは建てられないということですか。
事務局	今のところ、ことし中に赤羽根中学校か福江中学校のどちらに行くかを決めて、どちらの学校になるにしても、来年、再来年で統合の準備をする必要もあります。
委員	例えば校区で、伊良湖岬小学校は、今の和地小学校の校舎で新しく建てなくてもいいとの話になったときには中学校の移転先はことし中に決めなくてもいいのですか。
事務局	今の伊良湖岬小学校の校舎も大分老朽化して、いずれにしても建て替える必要があります。それと、先ほど子どもの数がどんどん減っていくというのも、教育委員会の基準としては、前々から申し上げているのが120人。1学年20人以上あれば何とかやっていけるのではないかと考えています。生徒数見込を見ていただくと、伊良湖岬中学校と伊良湖岬小学校は同じなので、そうすると、大体ゼロ歳児まで20人以上はいるかなということで、当面は十分やっていけると考えています。それと、先ほど申し上げたように、伊良湖岬小学校の老朽化、これが問題になっています。
委員	伊良湖岬中学校の移転先の、例えば福江中学校にしても、多分、旧和地小学校と同じぐらいの年数がたっているのではないかなと思うのですけれども、福江中学校の建て替えの計画はあるのですか。
事務局	いずれにしても、結構どこの学校も老朽化しているところが多いです。福江中学校に関しては昭和50年代の建物と、平成になってからの建物、校舎によって古い建物と新しい建物があります。当然、古い建物は建て替えないといけないのですけれども、順番があります。 当面は、まずは伊良湖岬小学校の建て替えがあります。次は、童浦小学校の建て替えを今、計画しております。その後、この統合を見据えて順番を決めていきたいと思っております。
委員	今の伊良湖岬小学校は古いほうから何番目ぐらいですか。
事務局	古いほうですね。

委員	かなり古い学校に小学校を設けたということですよ。
事務局	今回、仮に旧和地小学校に伊良湖岬小学校を設けたのは、当面ということで、すぐに建て替えをしたいということからです。
委員	伊良湖岬中学校の統合先については、1年間の子どもの様子を見て決めると去年からずっとおっしゃっているのですけれども、現状、子どもはどのような様子で、どちらへ行く方向なのですか。
事務局	できれば、子どもたちが一緒に同じ学校へ行ってほしいというのが我々の願いです。
委員	子どもの様子を見て決めると言ったじゃないですか。
事務局	様子を見るのは、我々であったり、親御さんであったり、学校であったり、みんなで見るのですよ。
委員	でも、決めるのは教育委員会ですよ。
事務局	はい。意見を出していただくようお願いをしています。
委員	保護者に聞いた意見では、親の意見は余り聞いてもらっていないとみんな思っているのです。どういう様子なら福江中学校で、どういう様子なら赤羽根中学校になるのですか。
事務局	その辺は難しいところですが、親御さんが子どもさんの様子を見ながら意見を言っていたらと思っております。
委員	では、今の五、六年生の親として、自分も含めて聞いた意見だと、「うちの子たちばかり何でそんな負担を負わなければいかんのか」という意見がすごく多いです。それについてはどう思いますか。
事務局	確かに、今回統合された子たちがまた伊良湖岬中学校で統合されるという意見は前々からありましたけれども、ほかの市町村の統合したところの様子も聞いています。
委員	女の子や男の子は思春期を迎えます。ほかの地区がどうかということは保護者としてどうかと思います。
事務局	実際にどんな問題がありましたか。
委員	以前と変わった子が多いと思います。
委員	もともと知っている子を見ておっしゃっているのですかね。
事務局	いや、そこまでは。
委員	子どもたち同士ではすごく不安定なのですよ。
教育長	<p>そうした点は、あした学校訪問もあり、私たちも直接、伊良湖岬小学校と伊良湖岬中学校へ行きますので、またそのときに確認したいと思います。</p> <p>お母さんの意見もわかりますし、教育委員会としても、今までの意見が十分反映されていなかった部分については、きょう、こういう形で意見交換会をやりましたので、時期等についても、もう一度教育委員会に持ち帰って検討してまた皆さんにお諮りしますので、きょう、意見を聞きながら進めていくということですので、絶対すぐに、その意見を直に反映するかどうかについては検討もさせていただきます。</p>

	<p>きょうは、今までにない意見が出ましたので、教育委員会としてももう少し整理をして、どのように進めるのがいいか、あるいは時としてはストップするのがいいかを含めてスタンスを少し変えてみたいなというように私も感じていますが、これは全体の話ですので、私は最終的には全体のほうを、多くの意見の中から最後に答申されたものについてどうかということで、最終的な決断をさせていただきますが、まだ資料が足りないよ、情報が足りないかなとも感じていますので、また引き続いてそれぞれの地区で会がありますので、後で言われても困る部分もあるので、ぜひ事が起きる前にいろいろ御意見をいただいて、ひょっとしてまとまりにくい部分もあるかもしれませんが、それについては何とかまとまる方向で進めていきたいと思っています。</p> <p>今、回答しきれない部分もありますので、また11月にそれぞれの3地区で会がありますので、そこでさらなる御意見も結構ですので、やってもらえればと思います。</p>
委員長	<p>教育長がまとめてくださいました。</p> <p>きょうは本当にいろいろな意見を出していただいてすごく参考になったと思います。11月の各地区の校区意見交換会でも忌憚なく意見を出していただいて思いをぶつけていただけたらと思っています。</p> <p>これをもちまして、第2回伊良湖岬中学校統合検討委員会を終了します。</p> <p>長時間にわたり御協議いただきましてありがとうございました。</p>